

人・まち・地球が好きだから「RERA」仲間この指とまれ

# きたく RERA(リラ) Times VOL.7

NPO 法人北区リサイクラー活動機構

HP : [www.kitakurecycler.or.jp](http://www.kitakurecycler.or.jp)

私たちは、SDGs 目標達成に向け、限りある地球資源を引き継いでいくため、地球環境の負荷を減らすライフスタイルへの転換をめざし、地域で行動していきます。



HPはこちら

今年も熱い暑い夏でした。パリオリンピック・パラリンピックで寝不足になっていませんか？北区リサイクラー活動機構の「RERA(リラ)VOL.7」をお届けいたします。

## 「生ごみ資源化」バスツアーに参加してきました！

2024年8月20日(火)は、グリーンリンク生活学校※の見学バスツアーでした。活動機構の政策提案の一つ「食のリサイクル」の構築に向けて地産地消を推進する”の一環として尾関理事が参加しました。



区バスは快適です。

今日も暑くなりそうな気配のする朝。午前9時に北区役所第一庁舎前に集合した総勢19名(区の学校地域連携課の職員1名を含む)は、区バスで出発です。行先は日野市と八王子市です。バスの中は、元気な子供たちも一緒です。

■東京都日野市新井のコミュニティガーデン「せせらぎ農園」に到着。前々から行ってみたかった所です。かつて田んぼだった約3,700㎡の田畑を市民が運営するこの農園では、生ごみを主体として土づくりをし、無農薬・無化学肥料で野菜や花を育て、地域での交流農教育を行っています。最初は、堆肥作りの説明です。

(裏面へ)



持ってきた野菜くずなどの生ごみは、この箱の中に入れます。団地などで集めてきた落ち葉や竹チップなどの有機物をかけます。ときどき混ぜて1カ月たったら、熟成場に移して米ぬかを混ぜて、発酵を促進します。



温度計



発酵中は温度が高くなるので、堆肥の切り返し(空気に触れさせる)を行って、適温の60~70℃に調整します。いつでも測れるようにこの青い小箱に温度計が入っています。土にさわってみて！  
熱いでしょ！！



雨に濡れないよう防水シートをかけておきます。2~3か月で、たまごの殻以外はほとんど分解され、においも臭くない。たまごの殻は、細かくすれば問題ありません。

※グリーンリンク生活学校/昭和42年に設立した「北区新生活運動協議会」に現在5つある「生活学校」のうちのひとつ。協議会の事務局は北区教育委員会内。上部団体は、「(公財)あしたの日本を創る協会」。

■アドレスは [recycler3196@outlook.jp](mailto:recycler3196@outlook.jp) 皆さまからの提案をいつでもお待ちしております。



(表面)より

説明してくれたのは「まちの生ごみ活かし隊」代表



「生ごみリサイクル」は、できた堆肥を地域内で活用して循環させることで本当のリサイクルの輪になります！  
全くその通りですね。



暑い日だったので「用水路」が涼しそう。水遊びがしたかった！  
足元はふかふかの雑草が気持ちいい。



「せせらぎ農園」の看板の前で、ハイ、みんないい顔して！  
主催のグリーンリンク生活学校の方の中には、畑歴8年の方もいました。すごい！

の 佐藤美千代さん。  
2008年にたった3人で立ち上げた主力メンバーの一人です。

生ごみは近隣の200世帯の持ち寄り。切り返し(空気に触れさせると温度調整を繰り返し約3カ月で堆肥ができます。ここでのお薦めは「菌(きん)ちゃん農法」。農薬や肥料を使わないで、土の中の微生物(糸状菌)でいい土を作ります。菌ちゃんいっぱいので野菜がすくすく育っています！

ここでの畑作業は誰でも参加できます。足元の雑草がふかふかして芝生のように。子どもたちは駆け回っていました。

畑を見学したら、地元の野菜をふんだんに使ったお弁当でランチタイムです。

## ごみ量の少なさ全国1位！



土のような基材(竹チップ、モミガラ燻炭(くんたん))中央に穴をあけて野菜くずなどをどんどん入れていきます。45kg位の生ごみが入ります。



まわりから基材をしっかりとかけます。ダンボールのフタをして、虫よけカバーをかけます。ダンボールの中に温度計が入っているのでチェックしながら約1カ月。堆肥が出来ます。

午後は八王子市北野環境学習センター「あったかホール」にある「エコひろば」です。この名前、北区の「エコ広場館」に似てませんか？

1997年にオープンした「あったかホール」は、まあるいガラス張りの4階建て。1階に「エコひろば」があります。虎見所長から「八王子市の生ごみ減量・資源化」のお

話を伺った後、ダンボールコンポストの使い方を見学しました。それにしても八王子市が2年連続でごみの減量が1位だとは知らなかった！(50万人以上都市対象)

では、1位の秘訣は何かでしょうか？

それは、2004年からごみの有料化(指定のごみ袋を買う)を始めたからです。それとダンボ

ールコンポストを普及し、生ごみを堆肥化して減量できたからでしょう。出来た堆肥は、使わない人の場合は役所が、団地の上の方の階でも引き取りに来てくれるとか。なるほど。そして減量化には、「エコひろば」での学習会の効果もありますね。

さて、今回の「生ごみリサイクル」の見学会では、生ごみの回収や活用は、市民と行政が手を組んで進めることが大切だということが分かりました。そしてパワフルな佐藤さんからは、北区で応用できるヒントを沢山いただきました。ありがとうございました。

尾関 和子